

平成29年12月期 第1四半期 決算説明資料

平成29年5月15日
株式会社ジェイホールディングス
(東証JASDAQ 2721)
<http://jholdings.co.jp>

1 平成29年12月期 第1四半期決算概要 3

会社概要

平成29年12月期 第1四半期ハイライト

四半期損益計算書

四半期貸借対照表

2 対処すべき課題と重点施策 12

全社

スポーツ事業 . . . 株式会社ジェイススポーツ

不動産事業 . . . 株式会社シナジー・コンサルティング

Web事業 株式会社フクロウ

1. 平成29年12月期 第1四半期決算概要

本 社	株式会社ジェイホールディングス
本社所在地	東京都港区新橋五丁目14番10号 新橋スクエアビル5階
設 立	平成 5年 1月 25日
代 表 者	代表取締役社長 上野 真司
資 本 金	3 億 4,257万円（平成 29年 3月末時点）
役 職 員 数	26名 （平成 29年 3月末時点 連結ベース）
事 業 内 容	スポーツ事業（フットサル競技場の運営） Web関連事業 不動産事業
連結子会社	株式会社ジェイスポーツ 株式会社フクロウ 株式会社シナジー・コンサルティング

1 外部環境

- ✓ 当第一四半期のわが国経済は、経済政策や金融緩和策を背景に緩やかな回復基調が継続
- ✓ 不動産業界においては空室率、投資利回りの低位安定、賃料水準の上昇傾向が継続し堅調な展開
- ✓ インターネット業界においては、広告市場の拡大が継続、クラウド市場も今後の成長に期待

2

当社グループのセグメント概況

✓ スポーツ事業

横浜マリノス株式会社との提携効果により「東山田店」は増収増益、一方「つかしん店」はスクール会員数、スクール収入が減少

✓ 不動産事業

前期より開始した一棟物不動産販売事業により
大幅な増収（対前年同期比140倍）、収益化は第2四半期に

✓ Web事業

美容医療に関するポータルサイト事業は高収益を確保。
不動産Webアプリ事業に着手。

(1) 四半期損益計算書【連結】表



売上予算は期間目標を達成、2Qからの収益確保が課題

(単位：千円)

	平成28年 第1四半期		平成29年 第1四半期		
	金額	対売上比	金額	対売上比	対前年同期比
売上高	168,335	100.0%	972,713	100.0%	577.8%
売上原価	84,555	50.2%	891,600	91.7%	1054.5%
売上総利益	83,779	49.8%	81,112	8.3%	96.8%
販管費	73,564	43.7%	81,571	8.4%	110.9%
営業利益	10,215	6.1%	-458	0.0%	-

(2) 四半期損益計算書【株式会社ジェイスポーツ】表



スポーツ事業：「つかしん店」の業績回復が課題

(単位：千円)

	平成28年 第1四半期		平成29年 第1四半期		
	金額	対売上比	金額	対売上比	対前年同期比
売上高	26,833	100.0%	25,945	100.0%	96.7%
売上原価	18,516	69.0%	18,516	71.4%	100.0%
売上総利益	8,316	31.0%	7,428	28.6%	89.3%
販管費	1,504	5.6%	1,716	6.6%	114.1%
営業利益	6,812	25.4%	5,712	22.0%	83.9%

(3) 四半期損益計算書【株式会社シナジー・コンサルティング】表

不動産事業：売上高は大幅増加、第2四半期は収入、収益の確保へ

(単位：千円)

	平成28年 第1四半期		平成29年 第1四半期		
	金額	対売上比	金額	対売上比	対前年同期比
売上高	6,483	100.0%	907,628	100.0%	14000.1%
売上原価	0	0.0%	862,763	95.1%	-
売上総利益	6,483	100.0%	44,864	4.9%	692.0%
販管費	1,614	24.9%	40,790	4.5%	2525.8%
営業利益	4,868	75.1%	4,073	0.4%	83.7%

(4) 四半期損益計算書【株式会社フクロウ】表

Web事業：収益性を維持しつつ、新たな収入源の確保を目指す

(単位：千円)

	平成28年 第1四半期		平成29年 第1四半期		
	金額	対売上比	金額	対売上比	対前年同期比
売上高	37,281	100.0%	39,139	100.0%	105.0%
売上原価	8,147	21.9%	10,319	26.4%	126.7%
売上総利益	29,133	78.1%	28,819	73.6%	98.9%
販管費	2,614	7.0%	2,491	6.4%	95.3%
営業利益	26,519	71.1%	26,328	67.3%	99.3%

(5) 四半期貸借対照表【連結】表



負債の減少、純資産の増加により、自己資本比率が大幅に上昇
財務体質の改善は着実に進行中

(単位：千円)

	前四半期 平成28年3月31日	当四半期 平成29年3月31日	対前年 3月末比		前四半期 平成28年3月31日	当四半期 平成29年3月31日	対前年 3月末比
流動資産	129,602	105,595	-18.5%	流動負債	99,007	45,613	-53.9%
固定資産	87,976	98,161	11.6%	固定負債	88,102	65,650	-25.5%
資産合計	217,578	203,756	-6.4%	負債合計	187,110	111,263	-40.5%
				純資産	30,468	92,492	203.6%

2. 対応すべき課題と重点施策

1 内部管理体制及び内部統制における不備の解消

上場企業として「内部管理体制（適時開示体制を含む）」及び「内部統制」における不備の解消を前期の優先課題に設定

平成28年10月24日 「内部管理体制及び適時開示体制の不備にかかる再発防止策の進捗状況に関するお知らせ（2）」

平成29年03月31日 「財務報告に係る内部統制の開示すべき重要な不備の解消に関するお知らせ」

管理本部の人員補強を含む体制の強化、
各種施策の厳格な実施により不備の解消を実現

2 「継続企業の前提に関する重要事象等（GC注記）」の記載解消

当四半期においても、GC注記の解消に至らず

よって、

収益部門の各セグメントにおいて

- ✓ 営業利益、経常利益、当期純利益の黒字幅の拡大

全社ベースにおいて

- ✓ 営業利益、経常利益、（親会社株主に帰属する）当期純利益の黒字化
- ✓ 営業キャッシュフローの黒字化
- ✓ 現金同等物の増加を含む財務体質の改善を図り、

早期にGC注記の解消を目指す

1 対処すべき課題

- ✓ 「東山田店」は、横浜マリノス社との提携効果により、前年同期比増収増益を実現
- ✓ 一方「つかしん店」は、スクール会員数、スクール収入の減少により前年同期比減収減益
- ✓ 結果、同セグメントとして、減収（前年同期比-3.3%）減益（同-16.1%）

2 今後の対応

- ✓ 「つかしん店」において、
ジュニア層を対象としたスクール運営の強化
ビギナーを対象としたイベントの増加により
スクール会員数、集客の増加を図り、
セグメント収入、収益の改善を目指す

1 対処すべき課題

- ✓ 前期末より開始した一棟物販売事業により、当四半期は5棟の仕入・販売を行い、907百万円の売上げを達成
- ✓ しかし、3月度はファイナンス手続きの遅滞等により1棟の販売に止まる
- ✓ その結果、セグメントの売上高総利益率（当四半期4.9%）、売上高営業利益率（同0.4%）が、想定を下回り、売上に対して利益額が伸び悩む結果に

2 今後の対応

- ✓ 金融機関との連携を強化したことにより、第2四半期では、
4月単月で4棟の仕入・販売を完了し、594百万円の売上を確保
- ✓ 人員補強による仕入力、営業力強化により、販売件数を上積みし、
売上高、利益額ともに上方修正を目指す

1 対処すべき課題

- ✓ 当四半期は引き続き美容医療分野を対象としたポータルサイトの運営により安定収益を確保
- ✓ 当社グループが業務経験を有する分野、情報優位にある分野に対してポータルサイトやWebアプリ制作、運営を通じた事業展開を図ることによる新たな収益源の確保

2 今後の対応

- ✓ 上記美容医療情報ポータルサイトを活用した広告モデルによる外部収益源の確保とともに、美容医療に近接する分野を対象とした情報サイトへの水平展開を図る
- ✓ 当社不動産事業部門と連携した不動産関連情報提供のためのWebアプリ開発、運営による早期事業化の実現



【将来未通しに関する注意事項】

本資料には、株式会社ジェイホールディングス及び子会社の将来についての計画、予測を含む記載が含まれています。これらの計画、予測は、リスクや不確定要素を含んでいることから、実際の業績は様々な要素により当社の計画、予測と大きく異なる可能性があります。

【本資料に関するお問合せ】 株式会社ジェイホールディングス 管理本部

TEL:03-6430-3461 E-mail:info@jholdings.co.jp